

## 2012年末賞与の見通し

— 一人当たり支給額は4年連続の前年比マイナスの公算 —

- (1) **今冬の賞与を展望すると、民間企業の一人当たり支給額は前年比▲0.7%と、夏季賞与の同▲1.4%に続き、マイナスとなる見通し(\*)** (図表1)。  
(\*) 厚生労働省「毎月勤労統計」事業所規模5人以上ベース。
- (2) 背景には、2012年度上期の企業収益の低迷(図表2)。エコカー補助金効果や復興需要が下支えとなったものの、円高の長期化や海外景気の減速を背景として輸出が弱含み、製造業を中心に収益が悪化。また賞与額のベースとなる所定内給与も減少傾向が続いており、一人当たり賞与額の下押し要因となる見込み(図表3)
- (3) **支給総額は、+2.6%とプラスを確保する見込み**(図表4)。売上の緩やかな回復を背景に、雇用者数が持ち直しているため、支給対象者が増え、一人当たり支給額の落ち込みを相殺する見込み。
- (4) 国家公務員は、▲8.7%と夏季賞与の▲9.2%に続き大幅減となる見込み。震災復興費用捻出に向けた「国家公務員の給与の改定及び臨時特例に関する法律」に基づく9.77%の減額措置がとられる一方、職員構成の高齢化が平均賞与額の押し上げに作用する見込み。

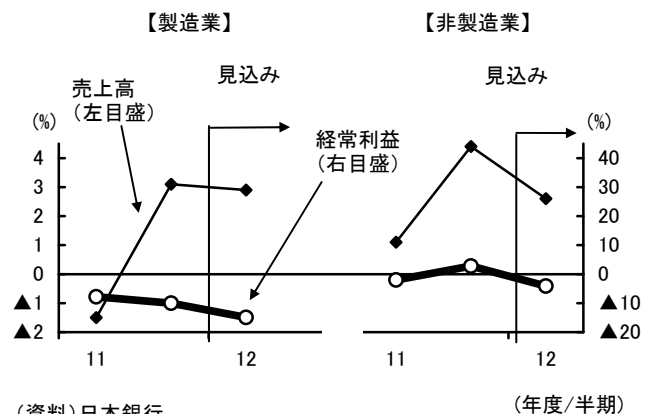
(図表1) 2012年末賞与(一人当たり)の見通し

	民間企業			国家公務員
		製造業	非製造業	
2011年夏季(実績)	▲0.9	7.1	▲2.7	▲2.2
2011年末(実績)	▲1.9	3.7	▲3.2	4.1
2012年夏季(実績)	▲1.4	▲3.1	▲1.0	▲9.2
2012年末(予測)	▲0.7	▲1.8	▲0.4	▲8.7
支給額(万円)	37.0	46.7	34.8	56.3

(前年比、%)

(資料) 厚生労働省、総務省、人事院、予測は日本総合研究所

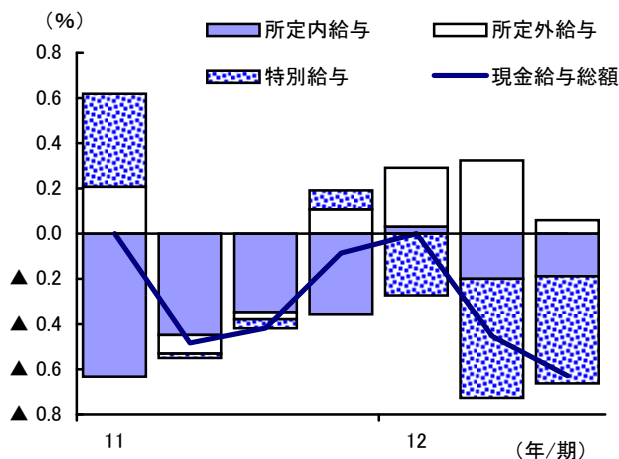
(図表2) 売上高・経常利益の見通し(前年比)  
(日銀短観9月調査)



(資料) 日本銀行

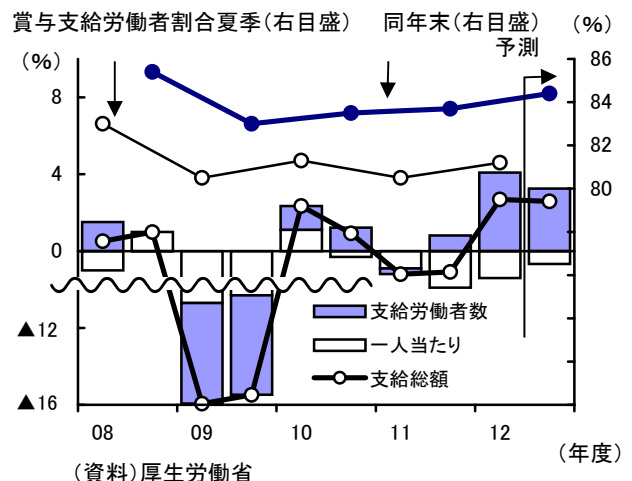
(年度/半期)

(図表4) 現金給与総額の推移(前年比)



(資料) 厚生労働省

(図表4) 賞与支給総額(前年比)



(資料) 厚生労働省